

# チーム IWASA

17N1007 岩佐一輝  
17N1020 小川晴喜  
17N1026 勝野楓未  
17N1080 遠山大輝  
17N1107 山口晃司

# 北千住



北千住のどこからでも見えていたお化け煙突



各丁ごとに銭湯があったが、  
現在は使われていないものが多い。



大学が入り学園都市に変わっていく



飲み屋横丁が路地に広がる

# 1920~1945 年

## インフラの整備が進む

1924 年 東部電鉄、浅草～西線井間を電化し電車運転開始。

1925 年 ミリオン座 開業

1926 年 国道四号線の新道（千住大橋～千住新橋間完

1927 年 千住大橋開通

1928 年 東京市電、千住四丁目まで乗り入れ。

1930 年 荒川放水路 事業竣工

1936 年 常磐線、上野～松戸間電化。

街は国道4号線を中心に、旧街道の賑わいは影をひそめる  
そして、戦争で焼野原と化す…



排水路ができたことにより荒川は人々の遊び場の一つとなった。

休日になると、映画を見に多くの人が映画館を訪れた。



この時点で田園風景はほとんど失われてしまっている

# 1946~1989年

- 1950年 ヨーカ堂 開業 (のちのイトーヨーカドー)
- 1962年 地下鉄日比谷線 (北千住~人形町間開通) 東武線と相互乗り入れ開始。
- 1968年 都電、千住四丁目~三ノ輪橋間廃止。
- 1969年 地下鉄千代田線 (北千住~大手町間) 開通。  
国道4号線幅工事開始。

国道4号線は交通の変化に伴いアーケード街の賑わいが失われる

- 1970年 マルイ北千住店開業
- 1971年 地下鉄千代田線 (北千住~綾瀬間) 開通。常磐線と相互乗り入れ開始。
- 1985年 ルミネ北千住店開業

電車の利便性の向上やデパートの登場、北千住駅を中心に生活のスタイルに変化

アーケード街はこの時期に完全に姿かたちを失ってしまう



店街を利用

電車の開発もさらに進み、より駅の近くに人が集まるようになった



# 現代



地価が上がり、借り地で店をやっていた人々が経営できなくなり、街にチェーン店が多く参入した。



つくばエクスプレス開通  
商業的な賑わいが東口に広がった。



1993年より大学のキャンパスが立て続けに建設される。特に2012年に建設された、東京電機大学は東口の雰囲気を一変させ、学園都市のイメージを植えた。

1989年 平成始まる

大学を誘致し、街に若さを取り戻す

1993年 放送大学

2005年 つくばエクスプレス開通

2006年 東京藝術大学

2007年 東京未来大学

2010年 帝京科学大学

2012年 東京電機大学

学生の増加を許容し、歴史ある街に新たな街の顔を現れる





# 敷地模型説明

1:1500の北千住のボリューム模型を作る  
アンケートで答えてもらったお店にピンを打つ

- ・食料品店
- ・娯楽の場
- ・銭湯

1965年ごろ：黄色・オレンジ

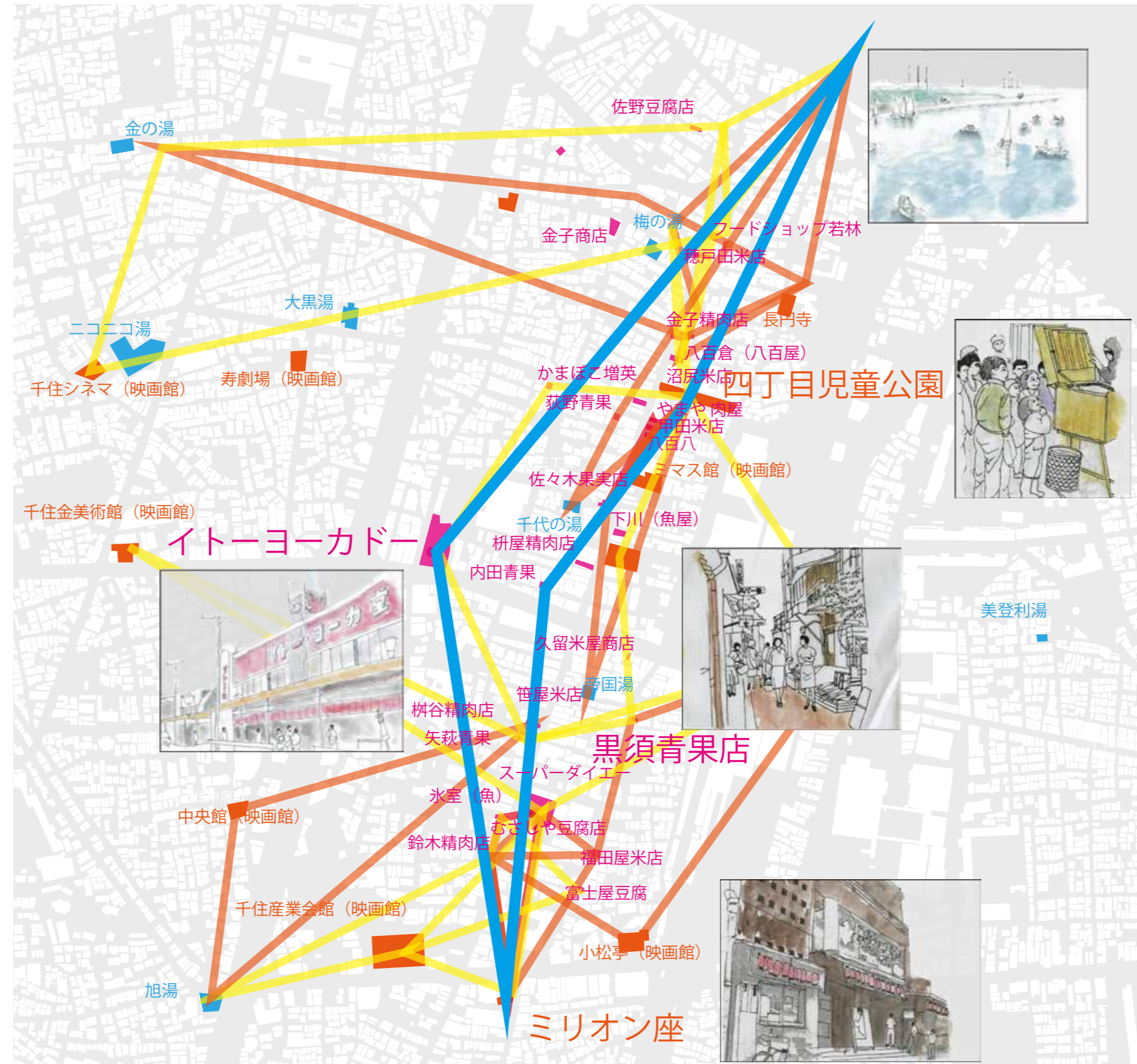
1980年ごろ：緑・黄緑

現在：赤・ピンク の三つのレイヤーを作り、  
一人の人の生活圏を線で表す。

水色の線は各時代を代表する一人に注目し、  
さらに、その人が使う場のスケッチを示す。



# 昭和 40 年



買い物は宿場町通りにある商店街に集中し、休日は荒川で遊んだり、ミリオン座に映画を見に行く人が多く、縦に長い生活圏の形をとっている。

模型写真

1965 年



## 四丁目児童公園

公園では、本の読み聞かせ  
など行われていた。



## 黒須青果店



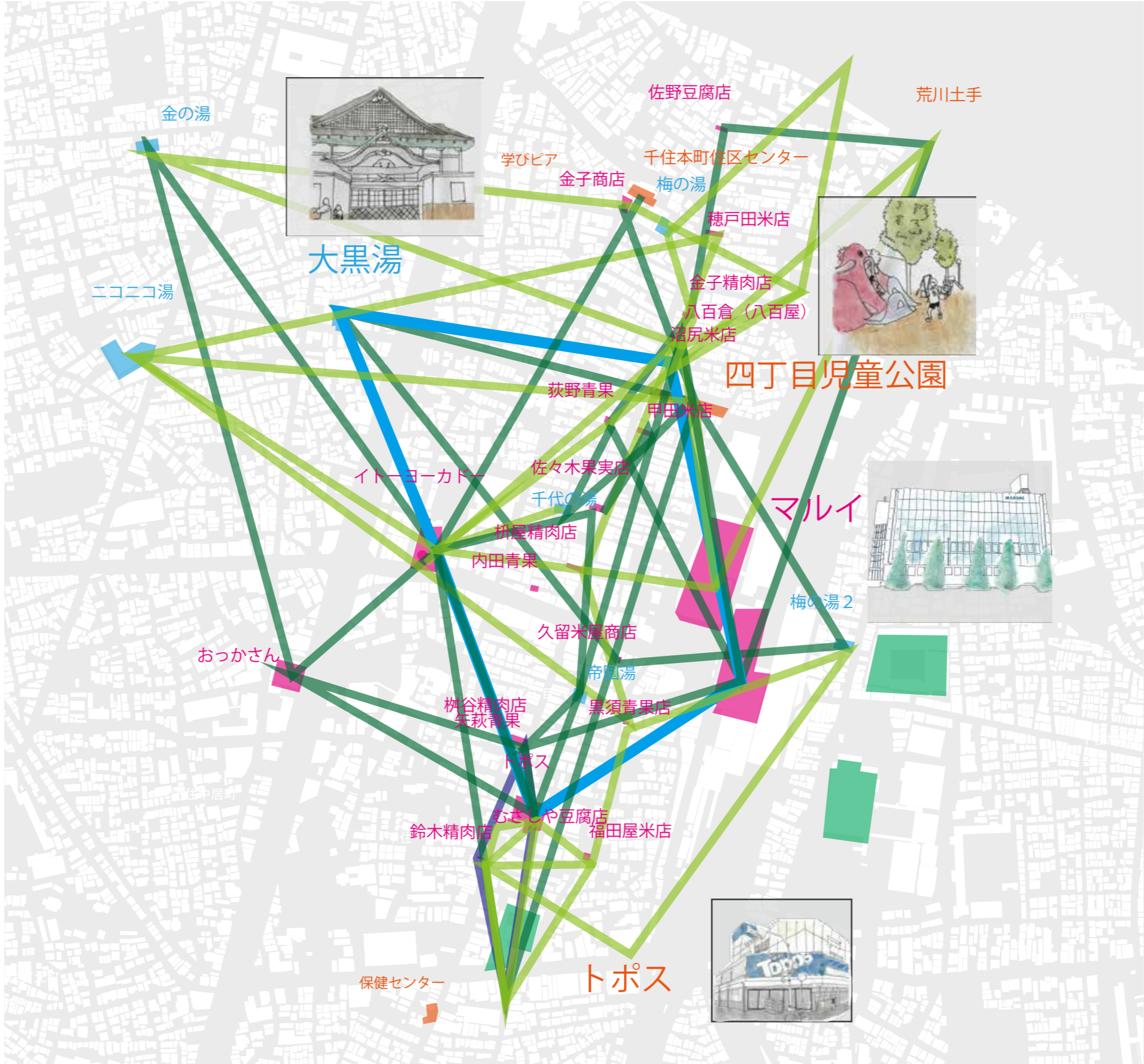
裏路地にはお店が立ち並び、  
多くの人でにぎわった



## ミリオンの座

休日には家族で映画を  
見に行く人も多くい

# 平成3年



駅にはマルイ、大通りにはおっかさん(スーパー)などができたことにより、生活圏の幅が広がり、全体的に利用される街の範囲が広がった。

模型写真

1990 年



# トポス



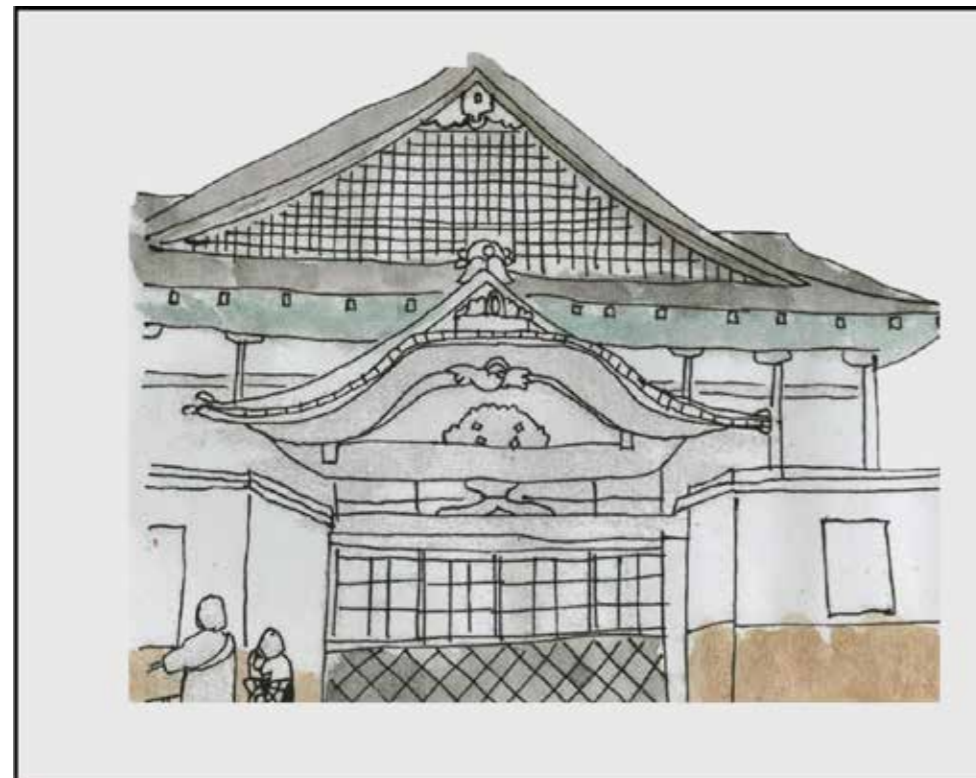
買い物ができる場所が増え、  
より便利に

# 四丁目児童公園



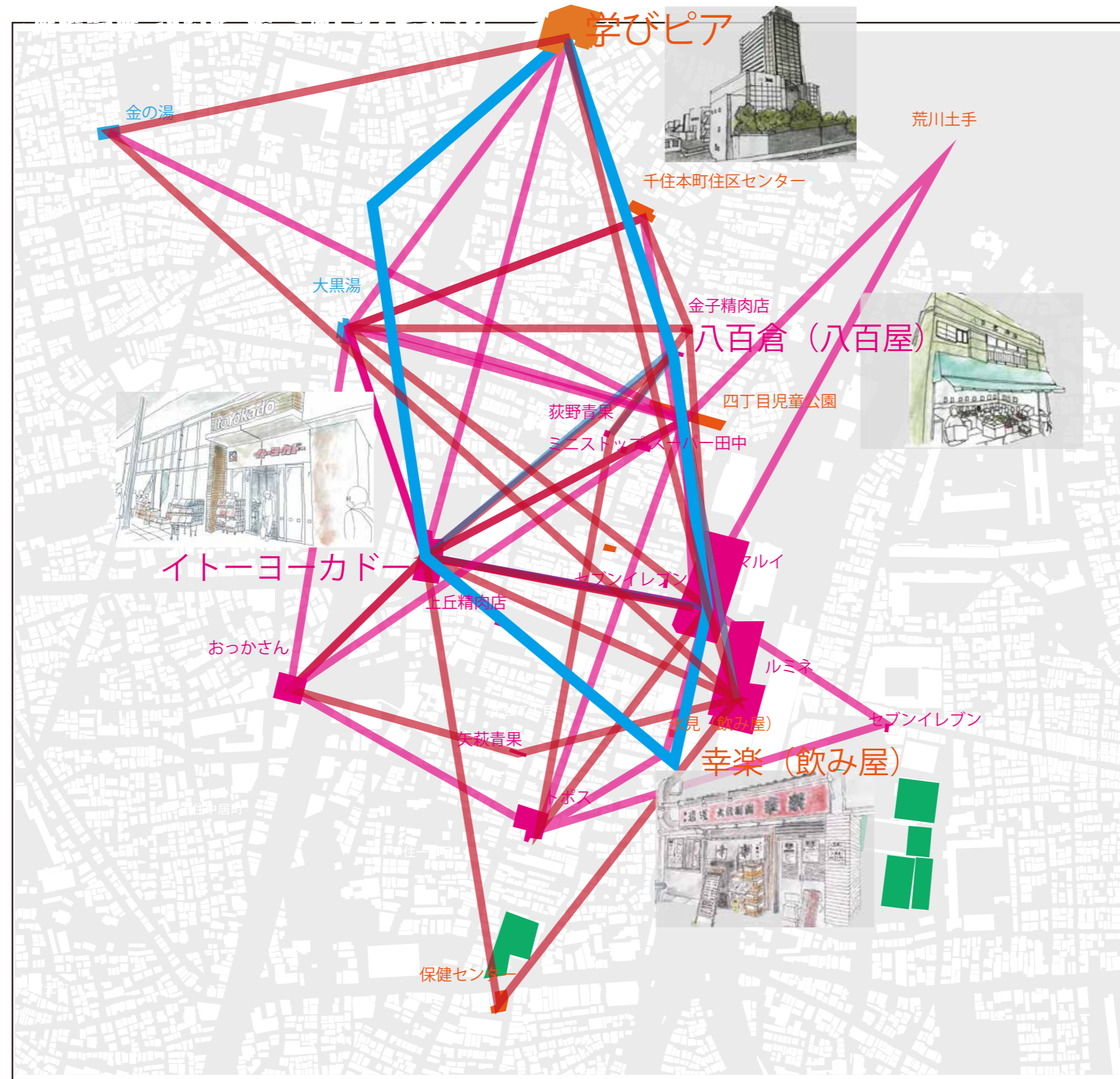
四丁目児童公園は現代でも使われており、  
どの世代にも変わらず使われている場所も存在する。

# 大黒湯



銭湯は日ごろから使う場所から  
週に一度など特別に行く場所へと変化した。

# 現代



銭湯や映画館が減ったことにより、人々が行く場所が絞られていき、全体的に線がまとまりのあるシンプルなものへと変わっていった。



模型写真  
現代



# 学びピア

イベントなどで多くの人が集まり、ここで知り合いになる人たちも多い



# 八百倉 (八百屋)



学びピアができたことにより、帰りに利用する人ができ、利用者が増えた。

# 幸楽 (飲み屋)



駅からの帰りや買い物の帰りなどに利用され、人が集まり漫談する場所の一つとなっている。

# まとめ

新たに施設ができることで普段行かなかった場に行き、その周りのお店を魅力を知り、利用し始めるなど周りに影響を及ぼす



お店の数が少なくなることで、大黒湯や八百倉など特別感が増し、住民の大切なものとなる

— 昭和40年  
— 平成3年  
— 現代

映画館であった場が保険センターとして子供たちの遊び場になったり、芸術センターとして文化の場として、昔から現代に人の集まる場に引き継がれている